この冊子の他の記事はこちらのページをご覧下さい。
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/genre/kusabana.html

農村工学研究部門メールマガジン

農村の草花

記事・タイトル	配信No.	配信年月
藪の中でひっそりと咲く花の「隠された心」とは～ヤブラン～	第134号	2021年7月
この星のような悩んで思り掘をこさえても魚がまる!?～チドメグサ～	第133号	2021年6月
夜の誘惑で月を見上げているあの草は?～コマツヨイグサ～	第132号	2021年5月
タンポポの実実?いえいえ、そっっりだけど別種の外来種ですーブタナ～	第131号	2021年4月
舞を舐じて悩となす 来年度は人々が集い競笑し合え&年になりますように ～ナンテン～	第127号	2020年12月
ガーデニングなどでお馴染みのあの草は実はあの薬草だった ～ショウノヒゲ～	第126号	2020年11月
中国製食の薬物窗にも登場し、今でも日常的に飲用するスーパー健康食品 ～チャノキ～	第125号	2020年10月
煩貴妃が愛し、あのを著にも登場するあい実は不老長寿の薬 ～クコ～	第124号	2020年9月
明智光秀の家紋で有名なあの草は実は畏まれにも魔除けにもなる? ～キキョウ～	第123号	2020年8月
邪気を払う?田んぼで最も駆逐されるあの草の名の由来は……コナギ	第122号	2020年7月
今年最後に紹介する草花は"美食で隠笑"な外来種 ～クラジロチチコグサ～	第117号	2019年12月
遥ばるでみかける試験管ブラシのような穂の草は? ～チカラシバ～	第116号	2019年11月
秋穂後の田んぼで見かける"黒い芒"の正体は ～クログワイ～	第115号	2019年10月
秋の野辺によく見立つあの花はサラダ菜のお関ちんです ～アキノノゲシ～	第114号	2019年9月
片り田の雲もの探しにはうってつけのふさな絶滅危惧種 ミズマツバ	第113号	2019年8月
とっても大きそうな名前ですが、実際は地ったに伸びるふさな草花です ～コニシキソウ～	第112号	2019年7月
初夏から梅雨時にかけて里山にみられる万葉歌人も好んだ白い花 ～ウツギ～	第111号	2019年6月
田んぼに浮かぶコケだけど虚仮にしないで和! ～イチョウウキゴケ～	第110号	2019年5月
春の風薫るころ、野良をピンク色に染め上げる中国由来の花 ゲンゲ	第109号	2019年4月
来年は心清らかに過ごせますようにお正月の縁起物 ～クラジロ～	第105号	2018年12月
この季節、邊陲でよく見かける熱帯からやってきた「ひっつきむし」 ～コセンダングサ～	第104号	2018年11月
秋も深まる中、大豆のご先祖さまを見つけてみよう ～ツルマメ～	第103号	2018年10月
人生いろいろ、好みもいろいろ、要たけで食う虫も好き好き、の夢とは? ～ヤナギタデ～	第102号	2018年9月
残暑の中、このピンク色の花穂が目立ち始めると、秋の気配を感じさせます ～ツルボ～	第101号	2018年8月
最近では水田の中も「砂米かり」が進んでいるんですよ ～アメリカアゼナ～	第100号	2018年7月
手入れが行き届かないと、翼王神のようなこの草に襲われる!? ～ヤブガラシ～	第99号	2018年6月
水辺で良くみかける貴色いアヤメの正体は競合力の強いインベーダー ～キショウブ～	第98号	2018年5月
春のアゼを代表するタンポポによく似た片り取りに強い事 ～オオジシバリ～	第97号	2018年4月
寒天を但で緑起のよい生緑性のシダ ～フユノハナワラビ～	第93号	2017年12月
晩秋の山野に咲く黄色の小花は、まるでありがたい薬膳さまのよう ～ヤクシソウ～(4)	第92号	2017年11月
片り田によく見られる小さなヒマワリのような花 ～タウコギ～	第91号	2017年10月
梅雨、この時期に現れ消えていくあの花は ～ヒガンバナ～	第90号	2017年9月
とても乙女が口に出しては呼ぶことができないかわいそうな花 ～ヘクソカズラ～	第89号	2017年8月
ひりりと辛くはないけど、見向きもされずに消えていくのはイヤセマ ～サンショウモ～	第88号	2017年7月

農村工学研究部門メールマガジン　購読申込はこちら
https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/mail_magazine/index.html

禁・無断転載

2022年農研機構　秋のオンライン一般公開　特別冊子

農村の草花

楽しく遊べる農村の草花　編

この冊子は、農村工学研究部門メールマガジンから一部抜粋しています。

農研機構　農村工学研究部門

分布：全国

オモダカ　（オモダカ 科）

学名：*Sagittaria trifolia*（サギタリア トリフォリア）

面高，沢瀉　別名：ハナグワイ，イモグサ，クチアケ，クワイ，イモゴグサ，クワラツ

主な生育場所

水田やため池，湿地など流れのない水辺に生育し，流水中には見かけない。最も多く見られるのは水田や休耕田である。また，水深に対する適応性も高く，50cm程度の水深でも生育可能である。

特　徴

種子と地下に蔓する塊茎によって繁殖する多年生。根元から伸びた長い柄の先に基部が左右に深く裂けるヤジリ型の葉を展開する。葉の幅は，細いものから，太いものまで変異が大きい。8月頃から花茎を伸ばし，径約1cmほどの白い3弁花を輪生する。また平行して，株の基部から地下茎をだし，その先端に塊茎を形成する。

イネ株の間で花をつけるオモダカ

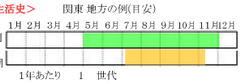
名前の由来：ヤジリ型の葉の形や葉脈の模様を，人の顔（面）に見立て，長い葉柄を持った葉が水面上から高くでていることから「面高」。また，沢の水が流れ出る「瀉」に生えていたことから。

＜農業との関係＞

オモダカは塊茎形成とともに種子繁殖も行うため，厄介な水田雑草として扱われる。窒素吸収量が大きく，発生密度が高いと20%以上の水稲の減収をもたらすこともある。しかし，用植え後20～30日後以降に発生した個体は，水稲によって生育が抑制される。また，早期収穫では稲刈り後にも旺盛に塊茎を形成し，次年度以降の発生の拡大を助長してしまう。

特徴のあるヤジリ型の葉を展開

＜生活史＞　関東 地方の例（目安）



＜類似種＞　オモダカ同様にヤジリ型の葉を伸ばす同属の絶滅危惧種アギナシも湿地やまれに水田に生育するが，オモダカのように地下茎を伸ばさず，株元に球状のむかごを形成すること，ヤジリ型の葉先が尖らずに点頭状になることが，区別点となる。

アギナシのむかご

＜一言うんちく＞

オモダカの群生している様子は，ヤジリ型の葉から弓矢を立て並べたように見えたり，槍にも見えることから，沖武の「勝ち草」とか「将軍草」などと呼ばれる縁起の良い水草として，古来から武人の家紋として採用されてきました。毛利家の花沢瀉（だきおもだか）などが有名です。

＜人との関わり合い＞

正月に食するクワイ（慈姑）は，オモダカを由来とする中国からの改良変種で，径3～5cmの塊茎をつける。京都山城地方から大阪摂津地方にかけては，野生のオモダカを栽培し「吹田くわい」として，クワイと同様に塊茎を食用に利用している。オモダカの若葉も茹でて水にさらすと多少苦みがあるが食べられる。
また，乾燥させた塊茎には，利尿効果や鎮痛作用があり，めまい，耳鳴り，頭痛などにも効くとされる。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：夏】
村雨のふる江をよそに飛ぶ鷺のあとまで白きおもだかの花（草根集）
おもだかに寄る謎や会員の湖（うみ）（内藤恵子）　　沢瀉の花にくはへの銚子殻（風雪）
風わたる水のおもだか影見えて山さはがれとどぶはたるかな（香川景樹）

分布：全国

イヌタデ　（　タデ 科）

学名：*Persicaria longiseta*（ペルシカリア ロンギセタ）

犬 蓼　別名：アカマンマ，赤のまんま

主な生育場所

畑や果樹園，田畑の畦，耕作放棄地，路傍，庭先など，身近な人里環境内で普通に見られる。水辺から日当たりのよい畑地まで生育環境は幅広いが，やや半日陰の湿った場所に群生することが多い。

特　徴

夏から晩秋にかけて茎の先に紅紫色の小花を3～5cmほどの円柱状に密生させた花穂をつける一年草。高さ20～50cmほどで，よく分枝する。茎は紅紫色を帯びやすく，晩秋になると全草が紅葉する。タデの仲間には葉の付け根に茎を覆うように筒状の「托葉（たくよう）」があるが，イヌタデには托葉の縁に托葉と同長の長い毛が生える。

イヌタデの花穂

名前の由来：タデの仲間には，藍染めに利用する「アイ」や，刺身のツマとした「ヤナギタデ」など，役立つ種類が多い中，あまり利用価値のないタデとして，蔑称の「イヌ」をつけて呼ばれたことから。

＜農業との関係＞

畑や樹園地の雑草となるが，群生しても草高がさほど高くならないため，強害草にはなりにくいが，近年，飼料畑で問題化しているとの報告がある。水田内にも発生するが，畦畔に多い。上中の種子は平均気温が7～10℃になると発生し，発生の深さは1～3cm前後である。春から秋まで発生期間は長いが，夏期の発生は少ない。土中の種子寿命は4年半後で10～30%との報告がある。

群生するイヌタデ

＜生活史＞　関東 地方の例（目安）

＜類似種＞　ほぼ同様の環境下に生育し，イヌタデに比べ，50cm～1m以上と大型となるサナエタデやオオイヌタデは，葉の裏に白毛が目立ちやすく，托葉の縁にはほとんど毛がない。またオオイヌタデの花穂は太く長く，下向きに垂れがちである。

オオイヌタデの花穂
（太く，長くて垂れ下がる）

＜一言うんちく＞

子どものママゴト遊びにしか役に立たないと思われているイヌタデですが，実際には茹葉や花穂は天ぷらにして食べることができます。ただし，味は可もなく不可もなくといったところでしょうか。ちなみにイヌタデの花言葉は「あなたのお役に立ちたい」。何といじらしいことでしょう。

＜人との関わり合い＞

野辺に普通に生える身近な草であり，花穂をしごき落としたものを赤飯に見立て，アカマンマとも呼ばれオママゴトの材料とした。また群生すると花穂や紅葉が非常に美しく，秋の風情を感じさせることから，古くから短歌や俳句などにも詠まれてきた。
よく揉んだ生葉は，皮膚病・虫さされなどに効くとされる。また，全草を干して煎ずれば，虫下しにも良いとされる。

＜俳句や短歌への登場＞

【季語：秋】
犬蓼の花くふ馬や茶の煙　（正岡子規）
犬蓼の花さかりなる里川にタ日ながれてあきつ飛ぶなり　（落合直文）
わが屋戸の穂蓼ふるから採み生し実になるまでに君をし待たわ　（万葉集・作者未詳）

分布：南九州，琉球諸島除く全国

ナガバジャノヒゲ　（ キ ス 科）

学名：*Ophiopogon japonicus*（オフィオポゴン ジャポニクス）

実 蓼　別名：ノシラン，ノシランの実，ノシランの実の実，ノシランの実の実の実，ノシランの実の実の実の実

生な生育場所

山地や平野の林内，林縁，雑木林，竹藪，公園，庭園，墓地，土手，畦，畑の周辺，荒地，道端，空き地，河川敷，海岸，防風林，防砂林，防潮林，防雪林，防風林，防雪林，防砂林，防潮林，防風林，防雪林，防砂林，防潮林，防風林，防雪林，防砂林，防潮